

2-3号ヘッドランド間の 対策について

平成25年10月12日



目次

1. 2-3号ヘッドランド間の現状と課題
2. ヘッドランド間の対策の方針
3. ヘッドランド間の対策案
4. まとめ

2-3号ヘッドランド間の現状



2013年6月12日撮影



ヘッドランド付近には、砂が多く堆積

2-3号ヘッドランド間の現状



2013年8月11日撮影



ヘッドランド付近には、砂が多く堆積

2-3号ヘッドランド間の現状

2007年7月20日撮影



養浜を開始する前の中央部は、波が直接護岸にあたる状況にあった。

2-3号ヘッドランド間の現状



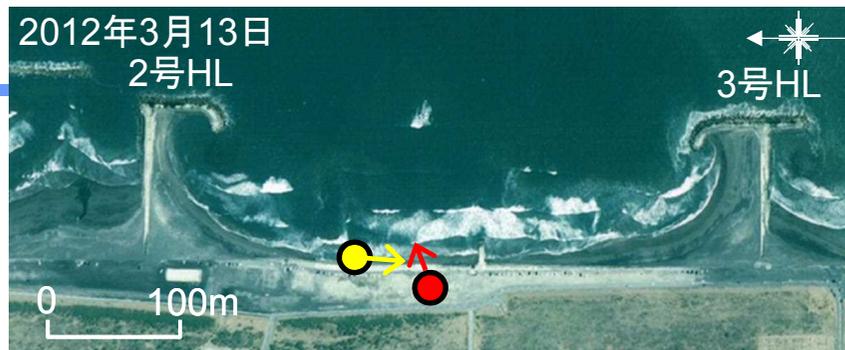
2013年6月12日撮影



養浜の効果で、浜幅は2007年と比べて、回復している。しかし、中央部はヘッドランド付近と比較すると、浜幅は狭い。

2-3号ヘッドランド間の現状

2013年8月11日撮影



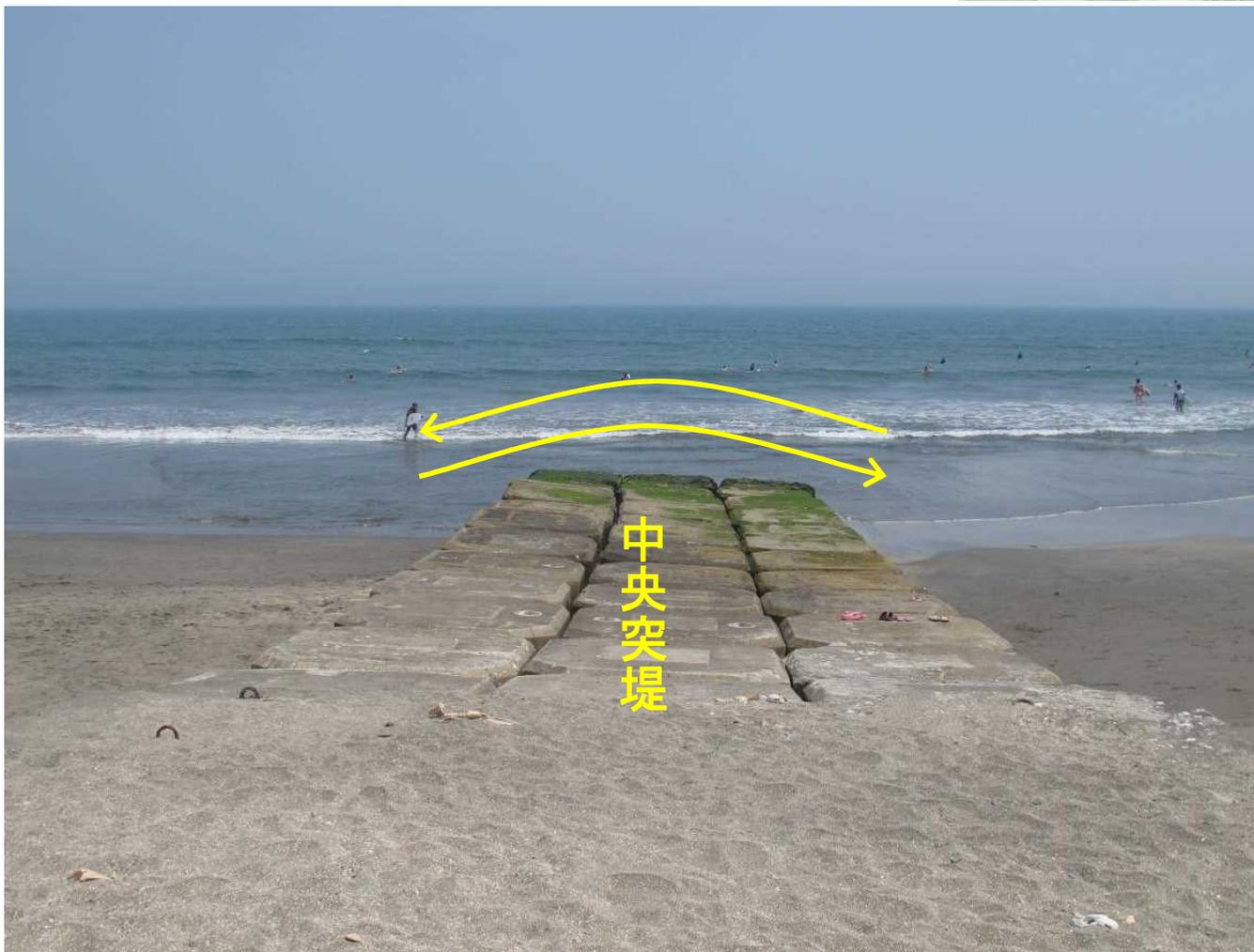
夏場は、海水浴客などの利用も多く見られ、ウミガメの産卵跡が発見される。

2013年8月15日撮影



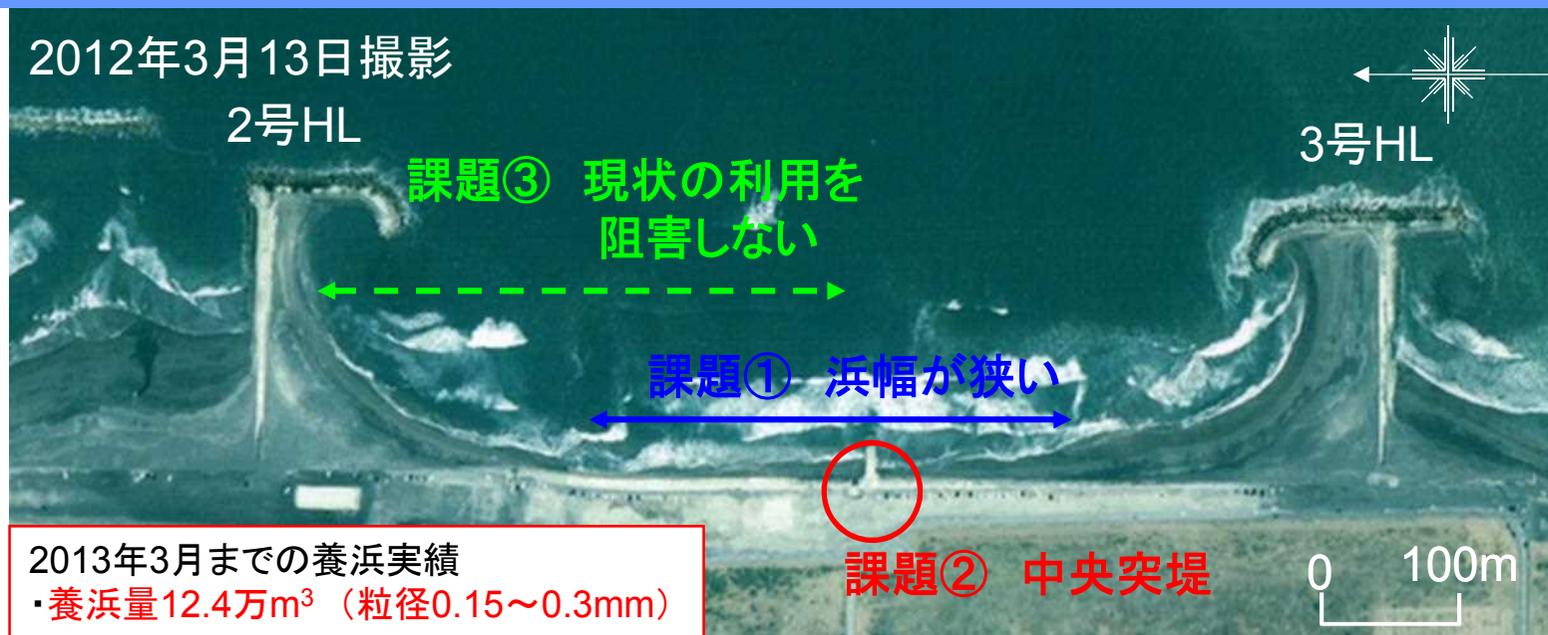
2-3号ヘッドランド間の現状

2013年8月11日撮影



現在設置されている中央突堤は、先端が沈下したことから、漂砂制御の効果を失っている。
(突堤先端を砂が通過して、移動可能な状況)

2-3号ヘッドランド間の現状と課題 まとめ



課題① 海浜中央部の浜幅が狭い

現在も、継続的に維持養浜は行われているが、安定する砂(中砂)を多く投入しなければ、安定して浜幅は前進しない。防護・利用・環境の観点から、夏場での浜幅確保を目標とする。

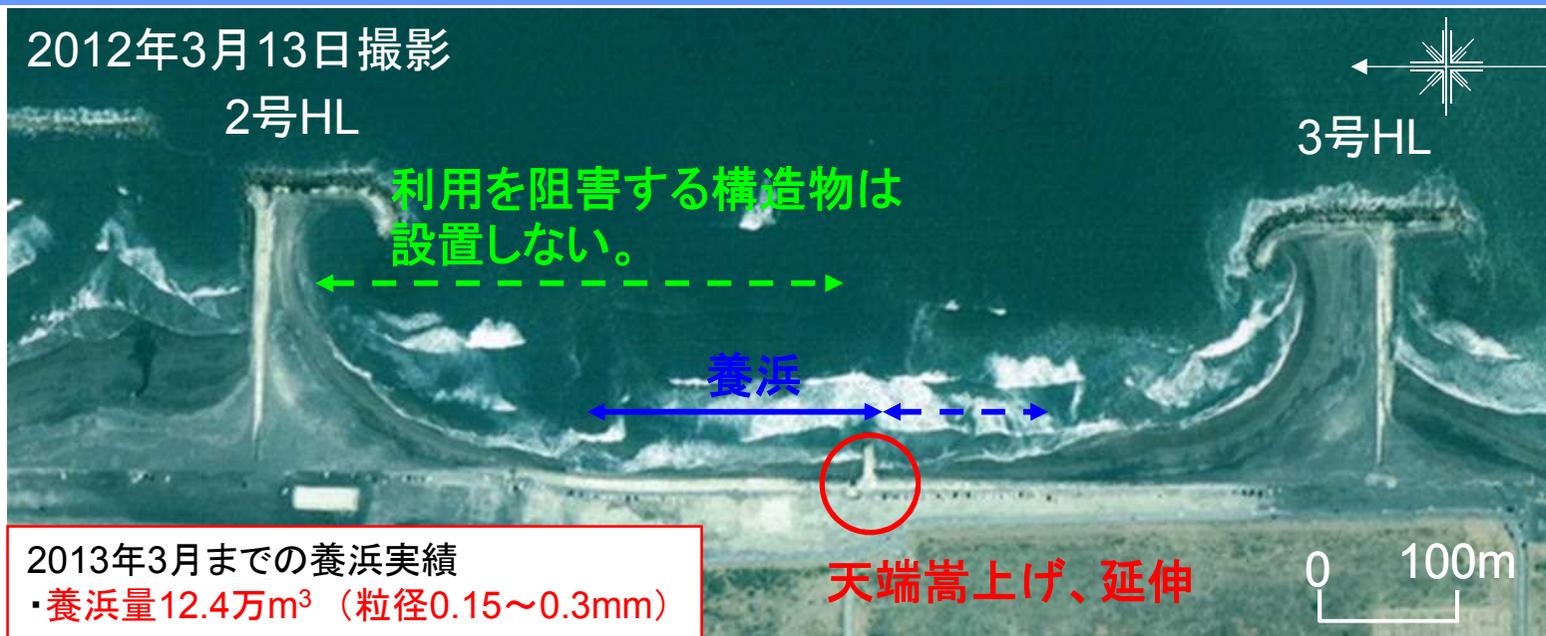
課題② 中央突堤の漂砂制御効果の低下

中央突堤が短く、先端が沈下したことから、当初の漂砂制御効果が失われている。現在の主な利用エリア(北側)で早期に浜を回復させるためには、突堤を改良し、漂砂制御効果を戻す必要がある。

課題③ 利用への配慮

現状の利用を阻害しない対策が必要。

ヘッドランド間の対策の方針



課題① 海浜中央部の浜幅が狭い

→海浜中央部に、現状の維持養浜を継続かつ歩留まりの良い粒径(中砂)以上の養浜。ただし、養浜効果を早期に発現させるため、2号ヘッドランド～中央突堤間に投入する。

課題② 中央突堤の漂砂制御効果の低下

→中央突堤の天端嵩上げ及び延伸

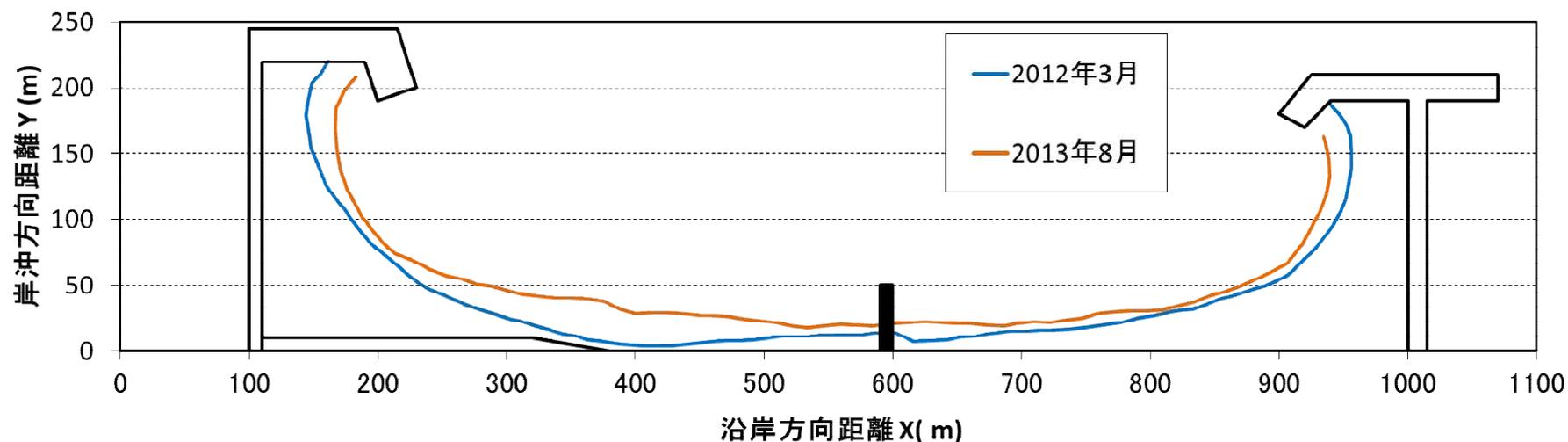
課題③ 利用への配慮

→2号ヘッドランド～中央突堤間には、沖や陸に海岸利用を阻害するような構造物を設置しない。

検討：中央突堤の改良(復旧および延伸)+養浜

ヘッドランド間の対策案 検討条件

(1) 初期地形	2013年8月の汀線（夏季の平均的な汀線位置）
(2) 検討対象	・中央突堤、養浜量
(3) 検討ケース	<u>目標: 夏季浜幅確保</u> ① 現況中央突堤改良(50m)+養浜 <u>目標: できる限り浜を回復</u> ② 中央突堤延伸(100m)+養浜



新規検討 ①中央突堤(50m)+養浜

(1) 対策内容

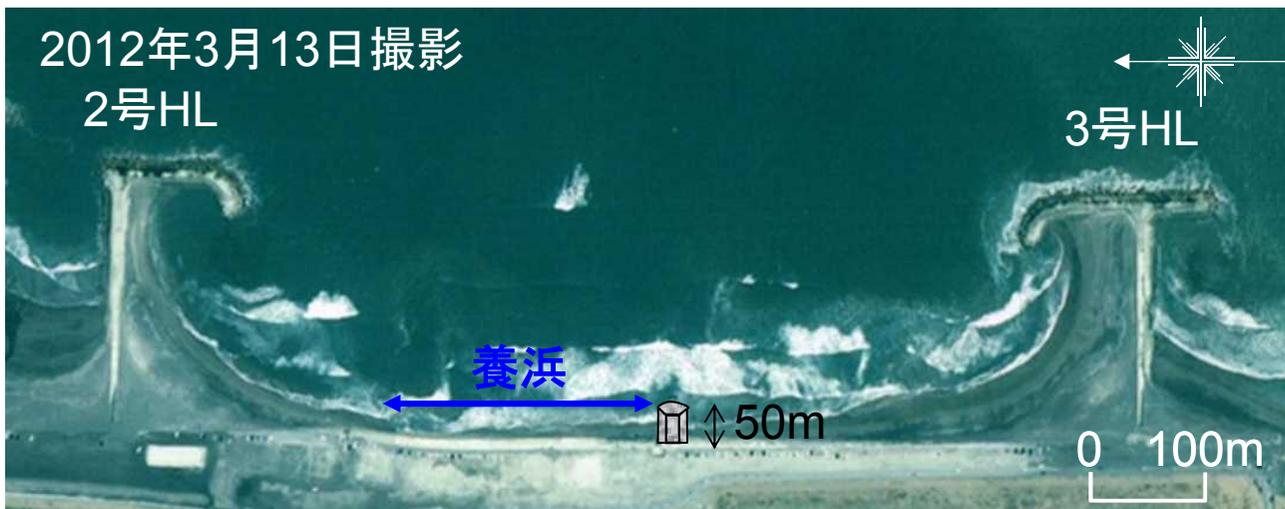
対策イメージ

中央突堤

現状の長さ(延長50m)
で改良

養浜

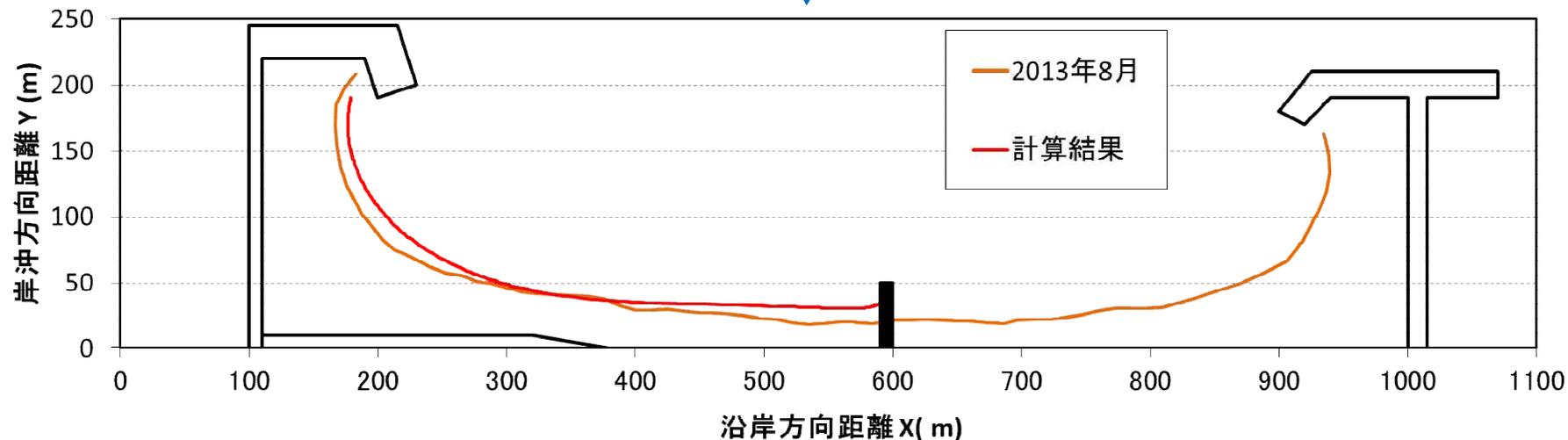
養浜材:中砂 0.3mm
海浜中央に約2万m³



(2) 検討結果

現状以上の浜幅確保

N92.5° E



新規検討 ②中央突堤(100m)+養浜

(1) 対策内容

対策イメージ

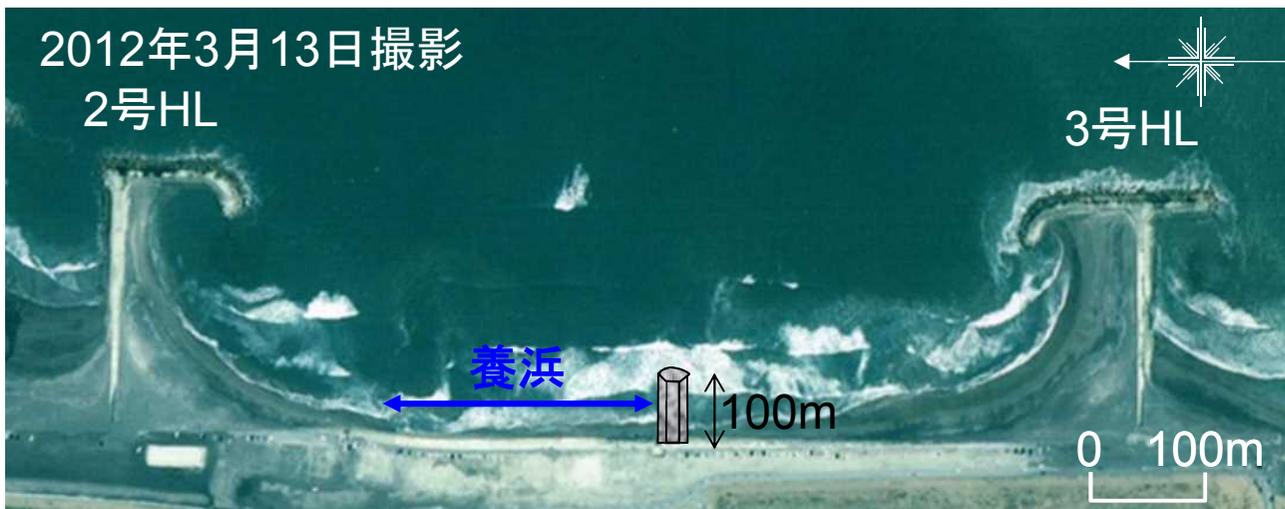
中央突堤

延長100m

養浜

養浜材:中砂 0.3mm

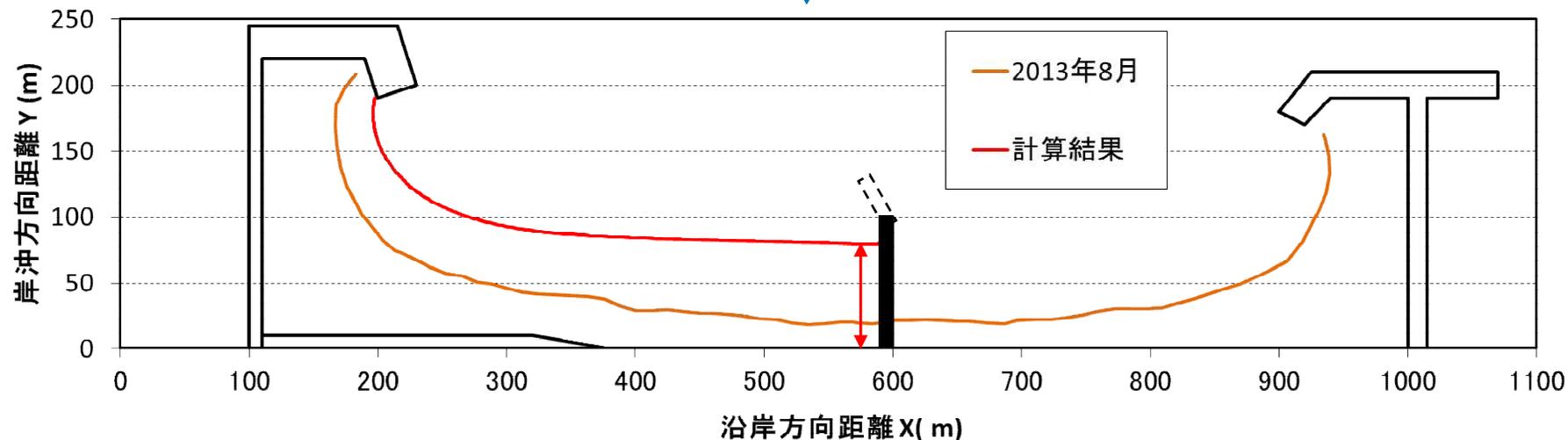
海浜中央に約12万m³



(2) 検討結果

中央突堤に近い浜幅確保

N92.5° E

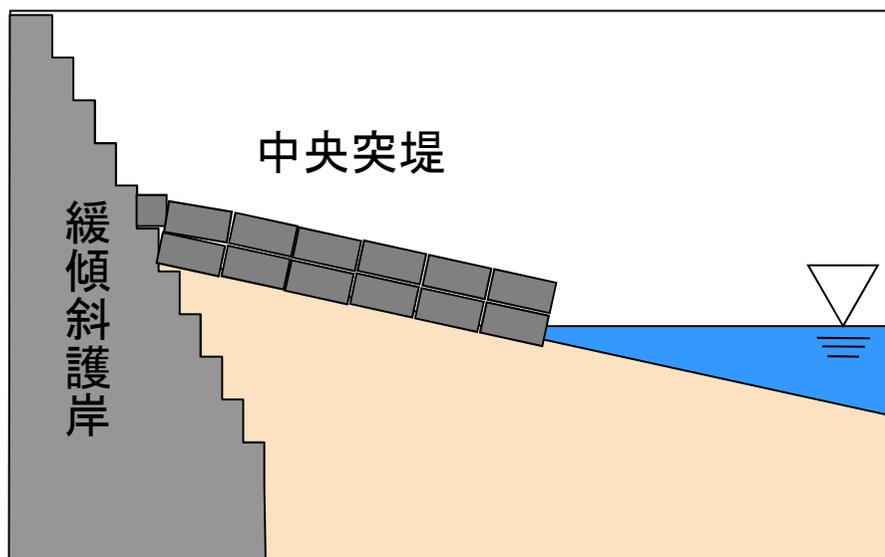


中央突堤改良の対策

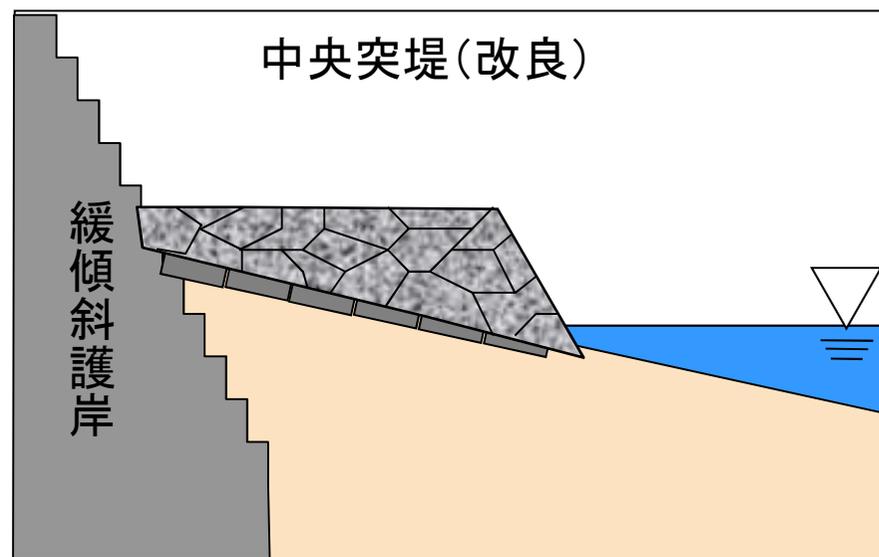
対策：被覆材に石材(1t以上)を用いた構造

- ・中央突堤について、石材を用いて改良し、効果を発揮させる。
- ・突堤の横断部は、人の横断をなるべく阻害しないように、傾斜を設ける。
- ・今後、中央突堤の先端部が沈下した場合は、石材を追加して補修する。

(a) 現況

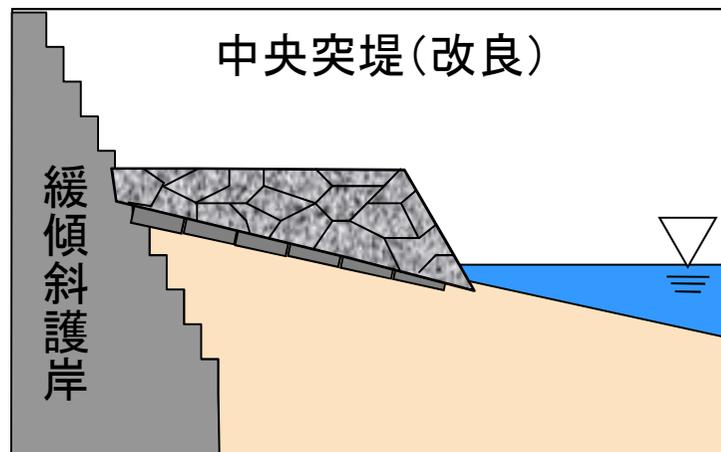


(b) 改良



中央突堤改良のイメージ

国内事例



茨城県霞ヶ浦 沖洲地区



新潟県新潟海岸 金衛町



茨城県霞ヶ浦 天王崎地区



まとめ

- 現況中央突堤の天端高さを石材で改良し、養浜約2万m³を投入する事で、夏場に必要な砂浜幅を維持。

→短期目標

- 中央突堤を縦堤約100mまで延伸し、養浜を約12万m³投入する事で、出来る限りの砂浜幅を回復する。

→中・長期目標